

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

(実施期間：平成 27～32 年度)

代表機関：山形大学（総括責任者：小山 清人）

共同実施機関：山形県立米沢栄養大学、大日本印刷株式会社研究開発センター

## 取組の概要

## (1)連携体制

「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに、既に連携を進めている3機関が女性研究者支援体制を整え、より積極的に女性研究者の参画を促し、研究力を強化する取組を行う。各機関の学長、センター長のリーダーシップのもと、3機関によるダイバーシティ連携推進会議で緊密な連絡調整を図りながら実施する。

## (2)活動内容

3機関がそれぞれの特徴や得意分野を活かして活動する。①山形大学米沢キャンパス(工学部)に男女共同参画推進室の米沢分室(ダイバーシティ連携推進会議事務局)を設置すると共に、ワーク・ライフ・バランス相談室や託児ルームを開設し、女性研究者の共同研究環境を整える。②共同研究に従事するライフイベント中の男女研究者の支援制度を構築する。③女性が代表となる共同研究の開発と研究費支援制度を構築する。女性の研究力向上を通して研究者及び上位職の増加を図る。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	a	b	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

有機エレクトロニクス研究における代表機関の高い実績を活かし、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という特色あるテーマを掲げ、3機関が連携して女性研究者の活躍促進のための基盤整備、異分野交流、研究力強化を進めた。共同実施機関で実践する「サービスデザイン」の手法を取り入れ、女性研究者による工学系分野の産学連携研究を促進し研究力強化を図る所期の計画を着実に実施し、研究成果の実用化も図っており、また、中間評価時点での数値目標も概ね達成していて評価できる。今後は、「有機エレクトロニクス・健康・栄養」の分野のみならずより広い分野において取組を展開し、広く他機関へ波及効果を及ぼすことを期待する。

- ・ **目標達成度**：連携機関全体として、女性研究者の在職比率及び上位職比率の目標を達成したことは評価できる。代表機関においては女性研究者の在職比率が目標をやや下回っており、女性研究者の増加に向けた一層の取組を期待する。
- ・ **取組**：代表機関において女性研究者を増加させるため、女性優先公募や女性限定公募のポジティブ・アクションを実施したことは評価できる。また、「サービスデザインプロジェクト」による女性研究者の研究力強化の取組、「自己啓発合宿」による女性リーダー育成の取組は評

価できる。

- **取組の成果**：代表機関において、女性優先公募や女性限定公募の成果として女性研究者の採用が進んだこと、共同研究を行った女性研究代表者の研究業績が向上したことは評価できる。しかしながら、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という特色あるテーマの下、3機関が連携したことの成果、他機関への波及効果が十分見えない。今後は、当該テーマに沿った事業展開を期待する。
- **実施体制**：各連携機関の機関長のリーダーシップの下、「ダイバーシティ連携推進会議」を定期的に開催し、密接な連絡調整を図りながら事業を推進した実施体制は評価できる。また、実施期間初年度に有識者による外部評価委員会を設置し、その意見を事業計画の推進に反映していることも評価できる。
- **今後の進め方**：補助期間終了後も申請時に計画した自己負担額を大幅に超える予算を確保し、取組の継続性・発展性を確保する計画となっており評価できる。今後は、各連携機関の優れた取組が3連携機関全体、さらに他機関へも波及するよう、更なる工夫を進めることを期待する。